

2025年11月

第182号

ぱれっと



株北日本ベストサポート

Tel 018-883-1888

二人の日本人が見事にノーベル賞を受賞

2025年10月6日(月)に生理学・医学賞の受賞者として坂口志文氏が、10月8日(水)に化学賞の受賞者として北川進氏が発表された。各受賞者の功績を以下に紹介したい。

一人目の坂口氏は滋賀県長浜市出身。1951年生まれ。京都大学で医学・博士号を取得した後、アメリカの研究機関でポストドクター研究を経て帰国。大阪大学を拠点に、免疫学の研究に取り組んできた。今回坂口氏は「制御性T細胞(regulatory T cells, Tregs)」という免疫系の“抑制メカニズム”に関する発見をし、「免疫システムが“ブレーキ”をかけるしくみ」を明らかにした。この制御性T細胞が適切に働くないと、自分自身の臓器に対する攻撃(自己免疫疾患)が起りやすくなり、その解明が病因や治療法の設計に革命をもたらすと考えられる。また、がん治療において「免疫を活性化する」手法が注目されているが、制御性T細胞の抑制機構をうまく制御することで、がんを排除しやすくなる道も開かれている。さらに、移植を行う際、異物である移植臓器を排除しないように免疫寛容を高める、あるいは慢性炎症を抑えるという応用可能性も期待されている。こうしたことでも評価され、医学・生理学の理解を根本から変えたとして、今回の受賞に至っている。

二人目の北川氏は京都市出身。坂口氏と同じく1951年生まれ。京都大学工学部石油化学科を卒業し、大学院を経て博士(工学)を取得。以降、講師、助教授、教授を経て、2007年には、物質と細胞を統合する研究拠点である iCeMS(アイセムス:物質-細胞統合システム拠点)の副拠点長となり、のちに拠点長も務めた。2024年からは、京都大学の理事・副学長(研究推進担当)も兼務している。そんな北川氏が研究に没頭したのが多孔性配位高分子(または多孔性金属錯体、英語では Metal-Organic Frameworks, MOFs)の分野である。この多孔性配位高分子は「金属イオン」と「有機配位子(有機分子)」を結合させて三次元構造を組み、無数のナノメートル級の「孔(穴)」を持っている。この「孔(穴)」は気体を吸着・貯蔵する能力に優れ、水素エネルギーの安全な貯蔵や、CO₂の高効率回収・再利用を可能にし得る、次世代産業の基盤となる分野となっている。また、環境問題に留まらず、医療分野でも急速に応用が進んでいる。薬剤を分子ごとに包み、体内で特定の場所・時間に放出する「ドラッグデリバリーシステム(DDS)」への展開がその一例だ。ただし、これらの研究成果は実用化へ向けたスケールアップ、コスト、耐久性、安定性の課題が残されており、基礎研究と応用研究の橋渡しが今後の鍵となる。

今回二人の日本人がノーベル賞を受賞したことは大変喜ばしいことだが、研究資金が得られなかったり、研究が評価されなかつたりと研究し易い環境が整っていたとは言い難い。今後日本が衰退しないためにも、環境の整備や新しいことに挑戦し易い風土の醸成が進むよう期待したい。



企業自助論

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

アクションラーニングプログラム

いま会社のなかで企業人を鍛えるということがなくなっている気がしている。鍛えるとは自分を耕すことだ。厳しい言い方をすれば、企業人は自分を耕すことを忘れて、楽な道を探索しているように思われるのである。また、毎日の仕事や企業活動にも、日々新しく組み立てるのだという気持ちがなくなっているように見える。新しく仕事をするのだという想いがないから、仕事に過度に慣れてしまう。そのために手間をはぶいてしまうし、教養・カルチャーから遠ざかっていくことになる。

別の言葉でいえば、脱皮力を身に付け、対話力をゆたかにし、構想力を練り上げて、展開力にパワーを示していくことが必要だ。企業を観察し経営者にお会いすると、楽をしない手間を省かない経営、自らを耕すことを忘れないリーダーが尊ばれていくという想いを強くする。そういう意味で経営者には哲学がなければならないと思う。

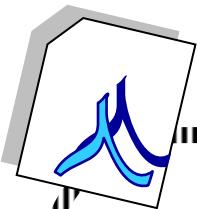
ある大手のサービス業を訪問したところ、「会社が思うように活性化しない。競争にまみれて放っておくと地盤沈下してゆく。外から先生を呼んで幹部会で話をしてもらった。『まったくそのとおりで、いい話をうかがった、賛成です』という幹部の異口同音の答えだったが、わかって、それでおしまい。社内は少しも変わらなかった」。そんな経営者のお話だった。

世の中には同じような悩みをもった企業が多い。なぜそのようになるのか。自分で行動して、学んで、会社を組織を変えていこうという動きがないからだろう。ピーター・ドラッカーが「マーケティングもビジネスも、企業は哲学のあるところに人を引き付ける力があるのだ」といっている。企業の哲学に裏打ちされたアクションラーニングプログラムが必要なのだ。

作家の高樹のぶ子さんが『物語を生む九州』という題で話された要旨を読んだ。高樹さんはつきのようにおっしゃっている。

「わたしたちは心の中にいろんな対立項を抱えています。普通の生活をしている限り、対立したものが身体を割って外へ出てくるようなことはありません。でも両方がせめぎ合いを受けたとき、人は立ち往生をしてどちらかを選び、自分の内側をのぞいてみなければならなくなる」。そう状況は、自分を普段と全く反対の場所に置くことで可能になる。「人間心理は視界にいろんなものがあると、自分を言いくるめたりごまかしたりできますが、シンプルで広大なものを目前にすると自分に正直にならざるを得ない」そして「海に向かった時人は正直になる」「本音を探すことが可能になる」とおっしゃっている。その通りだと思う。

(「人を惹きつける経営」より)



ルイーザ・メイ・オルコット（アメリカの小説家）

雲の向こう側は、いつも青空。

1832年11月29日	革新的な思想家・教育家である父ブロンソンと、黒人奴隸の解放と女性の地位向上を訴えた母アビゲイルの四姉妹の次女としてペンシルバニア州ジャーマンタウンで生まれる。
1840年(8歳)	父が学校経営に失敗し、一家でマサチューセッツ州コンコードのホスマーコテージに移り住む。
1841年(9歳)	失敗した学校経営の借金が膨らみ貧困状態となる。
1846年(14歳)	ジョン・ホズマーの学校に通い『ソローの横笛』詩を書いた。
1848年(16歳)	女性解放論者によって起草された「所感の宣言」を読んで賞賛し、女性参政権を擁護。文筆活動に励む。
1851年(18歳)	老父と病気の妹のために住み込みの家事使用人兼レディズ・カンパニオンとして働くも飢えと寒さに耐えきれず1ヶ月で断念。
1861年	南北戦争勃発。
1862年～1863年	戦場で負傷兵達の治療にあたる看護師として働く。
1863年(31歳)	南北戦争に従軍した経験から『病院のスケッチ』を発表し注目を集めれる。
1868年(36歳)	『若草物語』の執筆を開始し同年9月に出版。好評を博す。
1869年(37歳)	『若草物語』第二部刊行。
1877年(45歳)	介護中の母の病状が悪化すると同時に自身も病気になる。
1886年(54歳)	体調不良の中『若草物語』第三部を執筆出版。
1888年3月6日	脳卒中で逝去。享年55歳。 スリーピーホロー墓地に埋葬。



オススメのBOOK



「介護未満の父に起きたこと」

著者ジェーン・スー・新潮社

著者はコラムニストのジェーン・スー氏。スー氏の父をお世話してくれる人がいなくなり一人暮らしとなったときからの5年間のスー氏と父とのやり取りが綴られている。介護の本ではなくビジネス書を参考に行動計画書を書いていたり、家事代行サービスを探したり、LINEでの情報共有をしたりと、普通の介護とは違う切り口で父と向き合う姿が印象的だった。重いテーマになりがちだが、父とのやり取りが軽妙に描かれており、暗い気持ちにならず読み進めることができた。「自分もいずれ同じ立場になる」とスー氏が悟るくだりには、人生の循環を感じた。



くらしと保険のおはなし

お金のやり取りがなくても税金が？「みなし贈与」の落とし穴

通常の贈与は、一方が財産をあげて、もう一方が財産をもらうという当事者間の合意によって行われるやり取りをいいます。ただし、税金面では、当事者間の合意が無くとも「実質的に財産をタダまたは格安でもらった」とみなされ課税されるケースがあります。これが「みなし贈与」です。重要な点は、当事者の「意図」ではなく、取引の「経済的な実態」に焦点が当てられることです。

みなし贈与は当事者間に「贈与のつもりがない」ケースが多く、税務調査で指摘されるまでその存在に気づかず、予期せぬ追徴課税が発生してしまうことがあります。贈与と聞くと、個人間の取引をイメージする人が多いかもしれません、実は「みなし贈与」は個人と会社間、あるいは関連会社間の取引においても広く適応されます。取引の種類によっては追徴課税が多額になり、会社の経営を圧迫する事態に陥るケースもあります。



「みなし贈与」で損をしないための実践対策

★取引は必ず「時価」で行う

「みなし贈与」の課税は、原則として市場価値などの時価と実際の取引価額の差額に対して行われます。従って、この差額を発生させないことが、みなし贈与を回避する最も基本的で、最も重要な対策となります。

★関連会社取引の厳格化

複数の会社を経営している場合や、グループ会社が存在する場合、関連会社間での資金や資産、サービスのやり取りは頻繁に発生します。これらの取引も「みなし贈与」の対象となり得る為、第三者との取引と同様に厳格さをもって管理する必要があります。

★専門家への早期相談

最も実践的で効果的な対策は、複雑な取引や関連会社間の取引を行う前に、必ず税理士や弁護士などの専門家に相談すること。

弊社では専門家への相談の前に基本的なアドバイスが可能な AFP・CFP が在籍しております。お困りの際はお気軽にご相談ください。

【編集後記】

ドジャースがナ・リーグ優勝決定戦にてブリュワーズを打ち破り、2年連続のワールドシリーズ進出を決めた。日本人選手の活躍も目覚ましく、10月に調子を合わせているかのようにチーム力が上がっている。ワールドシリーズの相手は7戦目までもつれ、ブルージェイズに決まった。4連勝で勝ち上がったチームと7戦目までもつれたチームとのワールドシリーズは過去4回あるが、いずれも7戦目までもつれたチームが勝っている。データ上では不利であるが、日本人選手の更なる活躍で日本中を熱狂させてほしい。